



えん

社会福祉法人
同胞援護婦人連盟



令和 5 年 6 月 発行
第 36 号

リフレここのえ
学童女児作

「新緑のころ」

理事長 村松 満

長かったコロナ禍の生活も、やっと収束という言葉が現実的に語られ始め、観光や飲食業などにはいち早く活気が出始めているのは嬉しいことです。

我が法人においても、コロナが感染症法上の 2 類から 5 類に置き換わったころを境に、徐々に以前の行動様式が取られるようになってきました。その一つが、2019 年の 5 月に実施して以来中止になっていた八栄寮の「こどもの日フェスティバル」です。このイベントは、八栄寮最大の催しともいえるもので、ご近所の方によるフリーマーケットや米軍横田基地の皆さんによるハンバーガーの出店などがあり、大変賑やかな祭典です。

子どもたちや職員、さらには社会人となった先輩たちも来寮し、日頃鍛えた楽器演奏や歌声を披露し、場を盛り上げます。地域に溶け込んだ施設とはこういうことを言うのだと、思わせてくれるイベントです。先月のこどもの日の翌日に、これが 4 年ぶりに開催されました。

さすがにコロナ明け直前の日程でもあり、規模的には内々の小ちんまりとしたものになりはしましたが、5 月の新緑に囲まれた八栄寮は、4 年前と同様、子どもたちの歓声と楽器等の賑やかな音響で溢れ、久しぶりに子どもたちの澁刺とした表情を見ることができました。

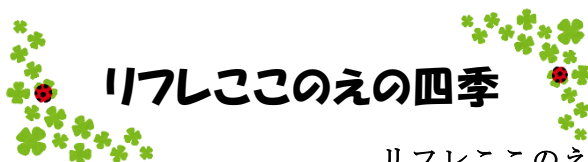
コロナの収束を実感するとともに、八栄寮もしっかりと地域に受け入れられているというある種の安心感と安堵感、そして同時に、それを支えてくれている職員や子どもたち、関係者の皆さんへの感謝の念が湧きあがってきました。

私事ですが、実は 4 年前に経験したこのフェスティバルは、当時まだ理事長に就任前の時点でしたので、地元の参加者の一人として見学させてもらったものでした。その時の八栄寮を包む鮮やかな新緑こそ、私にとっては八栄寮の象徴的な風景であり、最も印象強く胸に刻まれています。

それゆえ、今でも新緑の八栄寮を訪れると、何か「初心」なるものを思い起こさせてくれるような気がして、自らの役割の重さをその都度痛感させられます。この 4 年間、果たしてその任に堪えうる仕事のできたのだろうか。自負と反省の繰り返しの中で、自らに問う季節の風景でもあります。

現在、八栄寮南側では、八王子南バイパス道路の建設工事が進み、それとともに、周辺の樹木も伐採され、豊かだった雑木林の新緑はその量を減らしています。しかし、それにもかかわらず、八栄寮の広い敷地内には依然として眩いほどの新緑を湛えた木々や、美しく花開くつつじやサツキなどが健在であり、人の心を和ませています。

これからも、こうした自然の中、子どもたちが思いっきり元気に走り回れるような環境を守り、より安全に、より快適に過ごせる場としていくため、皆様のご協力の下、力を尽くすのが自身の役目と考えています。



リフレここのえの四季

リフレここのえ 施設長 横井 義広

四季をリフレここのえに入所してくるお母さんになぞらえてみたいと思います。現在 DV や暴力被害で入所する家族は、7割から8割を占めます。多くは東京都女性相談センターの一時保護を経験しています。だいたい1~2週間、そこで生活しています。着の身着のままで逃げてきた人もいます。まだからだに傷を負っている人もいます。この時期は冷たい風に身を切られるような「冬」の時期ではないでしょうか。

避難した家族のうち、さらなる支援を必要とする家族が母子生活支援施設の見学を行い、その中でリフレここのえと出会います。その後入所が決まると、主任が言います。「お母さんには運がありますよ」と。全国には母子生活支援施設が約200か所あり、東京には33か所あるのですが、その中でリフレここのえにたどり着いてくれたことは、「ご縁があることですね」と、主任は言うのです。この時期は、お母さんにとっては真冬からようやく暖かさを感じられる「春」なのではないでしょうか。

入所して1年もたつてくると、お母さんたちは職員たちの手厚い支援と声かけでだいぶエネルギーがたまってきます。そうなると、職員にいろいろ主張できるようになったり、施設を窮屈に感じたりすることもあります。私たちはそれでいいと思っています。この時期は、お母さんたちにとっては「夏」なのではないでしょうか。このころに、1年後の退所のお話をします。どこに住むか、学校は、保育園は、仕事はどうするのかということを考えます。お母さんたちは、少しずつ自分で決められるようになってきます。

入所当初、職員が同行していた市役所や病院には、お母さん一人で行けるようになってきました。入所時すべてが自分のせいであると責めていたお母さんが、等身大の自分でいいと自信を回復してきています。

お母さんに対して、私たちが大切にしていることは、リフレここのえに来て、「納得いく人生に出会えること」です。職員は一生懸命お母さんに寄り添い、職員と衝突することがあっても、それはお母さんが成長・変化している証としてとらえます。その成長・変化を職員は喜びと感じ、それが私たちのモチベーションでもあります。そのようにして過ごした2年間で、お母さんと私たちの実りの「秋」ではないでしょうか。



【各施設 在籍者数】（令和5年4月末現在）

こどものうち八栄寮 幼児 9名 小学生 12名 中学生 17名 高校生他 9名 【計 47名】	リフレここのえ 乳幼児 16名 小学生 15名 中学生 1名 その他 1名 【計 20世帯 53名】	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数 令和4年12月~令和5年4月末 ショートステイ 318名 トワイライトステイ 113名 合計 431名
--	--	---

手作りおやつで四季を感じる

リフレここのえ 少年指導員 林 つく詩

リフレここのえの学童では「手作りおやつ」を提供することを大切にしています。職員の手作りおやつをみんなで食べることで、手作りの温かみや安心感を得られるようにすること、作ってくれた人への感謝の気持ちを育むことができると考えています。学童には季節に合わせて夏の学童キャンプや冬のクリスマス会学童劇など様々な行事がありますが、日常生活の一部であるおやつでも季節を感じるものを取り入れています。夏には冷たくて清涼感のあるゼリーやアイス、冬には心も体も温まるようなスープを提供しています。



また、季節の行事があるとその行事に合わせておやつを工夫します。例えば七夕には「七夕そうめん」、節分には「恵方巻」を作ります。中でも学童が一番盛り上がったのは夏休みにおこなった「学童夏祭り」です。新型コロナウイルスの影響で地域の花火大会や夏祭りが中止となったため、職員が一人一つ屋台を出しリフレここのえの地下ホールを使って夏祭りを行いました。おやつにはチョコバナナや焼きそば、タピオカなど夏祭りらしいものを提供しました。職員がその場で作るのももちろん、子どもたちにもチョコソースをかけるなどの体験をしてもらい臨場感あふれるおやつに子どもたちの笑顔がたくさん見られてとても良い経験になったと思います。おやつを通じて子どもが季節感を大切にできるよう、これからも創意工夫をしていきたいです。



四季を感じる環境づくり

リフレここのえ 母子支援員 小幡 美智子

リフレここのえは、玄関を入ってすぐのホールに壁面装飾をしています。毎月の行事やその季節に合わせた壁面装飾を職員が準備します。いろいろな傷つきを抱えてリフレに来たお母さんや、仕事と子育てと家事とに追われ毎日を送るお母さんは季節を感じる余裕がない時もあります。そんなお母さん達に季節の移り変わりを感じてもらえたら嬉しいな、ホールが華やぐことで気持ちが明るくなるという思いから、毎月変更しています。壁面が変わっていることに気付いたお母さんや子どもたちから「変わってる！！」と歓声があがると、職員も嬉しい気持ちになります。お母さんの誕生日にはこの壁面装飾の前で親子写真を撮りますし、その他行事の時にもここで親子写真を撮ります。季節を

感じる装飾と共に、親子の楽しい思い出を記憶にとどめてもらいたいと思っています。

今後も、四季折々の装飾で入所者の皆さんの思い出を彩ることが出来るように丁寧な環境づくりをしていきたいと思っています。

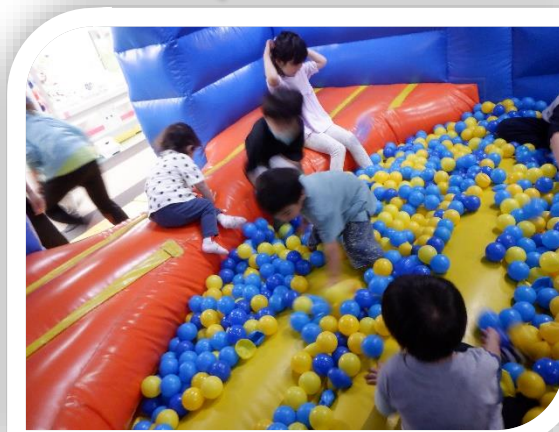


リフレここのえ行事報告

母の日遠足



大好きなお母さんに時間のプレゼント！
子どもたちだけで遠足へでかけました！



リフレの行事も少しずつコロナ禍前の姿に戻りつつあります。今年もたくさんの行事を通して、親子の思い出をたくさん作りたいです。

四季折々

リフレここのえ 少年指導員 坂本 一人

寒さも和らぎ過ごしやすくなってきたある日、学童の子どもたちと公園に遊びに行きました。いつものように鬼ごっこやブランコを楽しむ子もいましたが、タンポポの綿毛を吹いて笑顔を見せる子、ダンゴ虫やよつ葉のクローバーを真剣に探す子もいました。季節による変化や小さな発見に一喜一憂する姿を見ていると、改めて子どもたちの感受性に感服させられます。

この3年間様々な制限の中で大人も大変でしたが、子どもたちもたくさんの我慢をしてきました。給食やおやつの中には黙食をしなくてはなりません。中には修学旅行が中止になってしまった子もいます。

日本には四季があり、季節ごとにそれぞれの良さがあります。暖かくなってきたらお花見、夏は川遊び、秋は登山、雪が積もれば雪遊び等、子どもたちの感性を刺激する活動がたくさんあります。この3年間我慢してきた分を取り返すべく様々な活動を通して、これまで以上に楽しい思い出を作ってあげたいです。これからもお母さんと一緒に子どもたちの成長を見守れる幸せを噛み締めつつ、子どもたちがより豊かな情操を育ていけるよう関わっていきたくと思います。

八栄寮の自然一点描

こどものうち八栄寮 施設長 大村 正樹

八栄寮の南側の森ではバイパス工事が着々と進められ、40本以上の木々が切り倒された。去年まで捕ることができたカブトムシを捕まえることはこの夏できるだろうか？そこを住処としていたハクビシンや雉の姿は見えなくなった。

それでも、八栄寮はまだ自然に囲まれている。

門のある急坂下から見上げると、坂の両端に木々や花々が群生している。特に春から初夏にかけては、若葉が太陽の光を浴び、その木漏れ日に目を奪われる。

2月に梅の花が小さく咲き、その後河津桜が咲く。冬が終わり、春が来たことを私達は知る。そして3月、ソメイヨシノが八栄寮のあちらこちらで咲き乱れる。風が吹くと、桜吹雪が舞う。その下で子ども達は元気にサッカーや自転車乗りに興じる。葉桜が見え始めると、八重桜が咲く。八重桜の花びらは大きく、子ども達はそれを拾って頭に付け、花飾りにする。急坂の上にある八重桜は、かつては管理棟の屋根の上にまで枝を伸ばしていた。今は老木となり、わずかな花を咲かせている。造園業者の方からは少しずつ、木としての一生を終えさせてくださいと言われていた。

花々も美しい彩を添えてくれる。八栄寮の北側、雑木林の横にある畑では3月に200本以上のチューリップが咲き誇り、その先にはたくさんの黄色い花を咲かせた菜の花畑が見える。

春が過ぎ、夏を過ごし、秋を迎える。八栄寮の景色は一気に変わり、敷地内は落ち葉で埋まり、木々は紅葉に包まれる。芋ほりをし、落ち葉で、焼き芋を焼く。それを子ども達



はおいしそうにほおぼる。

先日のことである。日課である敷地内の見回りをしていて、雑木林に隣接した葦林から雉のひなが飛び出してきた。どうやら住処をこちらに移したようである。

そんなことも知らずに元気に遊ぶ子ども達の声が敷地内にこだましていた。

八栄の庭

こどものうち八栄寮 木部 敏枝



八栄寮は14000㎡を越す敷地があります。敷地内の花壇や畑は季節ごとに姿を変えています。春は色鮮やかにチューリップが咲き、土の下からはフキノトウ。ブロッコリーもとれます。夏にはナスがたくさんなり、いちごやブルーベリーからはわずかですが、ジャムも作れます。秋は市の花のヤマユリが香りを放ち、長い期間楽しめるキバナコスモスも見ることができます。冬には里芋を収穫します。苗や球根は寄付でいただくことが多いです。

私は30年以上八栄寮の厨房で働いてきましたが、定年退職後、もともと花好きであったので敷地内の花壇や畑を任されています。これらの季節ごとの花や作物は、子どもたちの日常生活の中で何気ない存在となり自然に目に映り、心を和ませてくれると信じています。花壇にお花を見に来てくれたり、畑でとれた野菜を子どもや職員がおいしく食べてくれるととてもうれしいです。いつか子どもたちは八栄寮を去りますが、季節が巡るたびに子どもたちを見守っていた八栄寮の自然を思い出してくれるといいなと思っています。

施設の四季を使った遊び方(春から夏編)

こどものうち八栄寮 ケアワーカー 石田 浩二

八栄寮は自然豊かな高尾山のふもとにあります。子どもたちはグラウンドでサッカーや野球、自転車などで遊ぶ一方、季節を活かした遊びもします。春から夏にかけては特にたくさんの虫や花が出てきます。バッタやトカゲを捕まえたり、アリやダンゴムシで虫かごをいっぱいにしたり、ハチにおびえながらも樹液の出る木にクワガタやカブトムシを探しに行ったり、桜の花びらをキャッチするところからルールを作って遊びを開発してみたり、ダンゴムシを見つけるためにそこら中の大きな石をひっくり返す等々、書ききれないくらいです。お花もチューリップやタンポポをはじめとして、色々な種類を見つけることが出来ます。また、少しでも暑くなると子どもたちは水遊びがしたくてたまらなくなるようです。最初はちゃんと水鉄砲を使っていますがそのうち水鉄砲の水のタンクから直接かけるようになり、最終的にはバケツの水を相手にかける、ホースで思いっきり濡れる等をして寒いと言いながらも満面の笑顔を見せてくれます。後片付けやお風呂までの廊下が濡れるのはご愛敬ですが…(笑)。

子どもによっては夏休みにクワガタなどを飼育し、毎日餌をあげてひと夏の相棒として一緒に過ごすことも。授業で星座を習うと自慢げに星の位置を教えてくれることもあります。今年の夏にはぜひ天体観測できたらいいなと思っています。



思い出に残る食事

こどものうち八栄寮 厨房 大塚 守

今回はテーマが『四季』ということで、八栄寮では季節ごとにどのような食事が出されているのか、施設行事や伝承行事での『食事』を中心に説明を交えつつ紹介していきたいと思います。

『春』は行事としては、年度末に『門出祝い』、年度初めには『進入学祝い』があります。進入学では新しい生活を応援し、新しく八栄寮に来た子どもや職員さんを歓迎し迎え入れます。門出では八栄寮から巣立っていく子どもや職員さんを送り出し、お別れをする事になります。どちらも生活の区切り、節目になる大切な行事であり、食事子ども達が退寮後に懐かしみ思い出せるように、門出ではステーキランチ、進入学では海鮮ちらしが恒例となっています。

『夏』はキャンプ行事や夕涼み会などで夏らしく、かき氷や流しそうめん、スイカ割りを行ない、他には七夕メニューなども献立として提供しています。

『秋』はここ数年ではハロウィンメニューや十五夜のお月見メニューを出しています。

『冬』はクリスマス、お餅つき、年越しそば、お正月、新年会、七草粥、鏡開き（おしるこ）、節分（恵方巻き）と盛り沢山です。

今回のテーマからは少し外れてしまいますが、八栄寮のような施設での食事には多くの制限や守らなくてはいけない決まりがあります。そのルールの中でも、おいしく、家庭的で暖かみのある食事、楽しい食事を大切にしていきたいと思っています。八栄寮から巣立っていった子ども達が自立して、大人になり家庭を持った時に、ふと八栄寮での食事を思い出し、それが懐かしくも良い思い出になっていたら嬉しく思います。

子どもたちと季節の食事を

学習塾オリーブみらい 塾長 内山 大樹

オリーブみらいでは、学習の休憩中に手作りの食事を提供しています。それは“支援は相手のお腹を満たすことから”という法人の考えに基づいています。家庭でもなく、学校でもないオリーブみらいでの食卓には、縁あって出会った職員と子ども達のなんとなく照れくさく、それでいて温かい団欒の時間が流れます。生徒さんの中には「ここで食べるから家では食べないんだ」と言っている子もいます。塾に来る週 2 日は子どもの食事を考えなくていい日ということで、ひいては家庭支援にも繋がっていると考えています。

そんなオリーブみらいの食事は、季節に合わせたものを提供するよう心がけています。春の七草から始まり、筍の炊き込みご飯、夏野菜を使ったもの、ひなまつり、ハロウィン、クリスマスなどの行事にも合わせています。季節に敏感でいることは生活が豊かであることの 1 つだと思います。子どもたちと一緒に、食事を通じて季節を楽しんでいきたいと考えています。



資金収支決算書 令和4年度 社会福祉法人同胞援護婦人連盟

単位:千円

勘定科目		本部	こどものうち 八栄寮	リフレ ここのえ	子ども家庭 サービス	内部取引	合計
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	8,370	389,316	126,382	14,220	538,288
		経常経費寄附金収入	2,543	888	50	0	3,481
		受取利息配当金収入	5	48	5	0	58
		その他の収入	2,096	7,677	39	0	9,812
	支出	人件費支出	8,908	256,405	76,121	11,493	352,927
		事業費支出	845	62,734	8,993	955	73,528
		事務費支出	7,619	29,260	13,663	1,110	51,652
		その他の支出	62	2,999	0	0	3,061
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0	8,583	0	0	8,583
		その他の施設整備等による収入	0	0	0	0	0
	支出	固定資産取得支出	373	25,352	639	0	26,364
		ファイナンス・リース債務の返済支出	0	0	190	0	190
		その他の施設整備等による支出	0	0	0	0	0
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	0	1,156	598	0	1,754
		拠点区分間繰入金収入	4,753	0	0	0	-4,753
	支出	積立資産支出	0	23,389	26,798	0	50,187
		拠点区分間繰入金支出	0	2,377	2,377	0	-4,753
当期資金収支差額合計		-39	5,151	-1,707	662		4,067
前期末支払資金残高		195,795	110,515	36,328	1,104		343,742
当期末支払資金残高		195,756	115,665	34,621	1,766		347,808

※千円未満を四捨五入しているため合計数が合わない場合があります

～子どもたちのしあわせのために～

- 1 郵便振替 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 00110-1-499359
 2 ゆうちよ銀行 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 019店 当座 0499359

- ・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
- ・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
- ・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

社会福祉法人同胞援護婦人連盟 児童養護施設 こどものうち八栄寮 母子生活支援施設 リフレここのえ 八王子市 子ども家庭サービス事業 〒193-0944 東京都八王子市館町 2232-1 Tel:042-661-5891 Fax:042-667-0006 http://www.doenfujin.jp	編集後記 今号のテーマは、「四季の楽しみ」です。 自然あふれる八王子にある施設だからこそ四季の移り変わりをしっかりと感じる事ができるように思います。 一年が過ぎるのはあっという間です。四季の楽しみが見つけられるような一年にしたいと思います。 【広報誌担当 小幡美智子】
---	--

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。